

**2011年3月 石原社長
定例記者会見概要**

3月30日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<地震関連>

3月11日に発生した東日本大震災においては、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

TBSでは、地震発生直後から、JNN系列の総力を挙げて取り組み、通常番組を打ち切って報道特別番組を放送した。報道機関の使命として、防災上、緊急を要する情報を最優先に伝えてきた。今回の地震は、被害が極めて甚大なうえ、地震のあとも、原子力発電所で事故が起きるといふ深刻な事態が発生したため、従来の地震以上に臨機応変に編成対応を行った。

また、今回は報道とメディアビジネス局が連携して、Ustreamなどへのネット配信を他局に先駆けて積極的に対応した。新しい災害報道の取り組みだったが、大きな反響があったと聞いている。現在も余震が続き、原発も依然として予断を許さない状況だ。被災地の方々の安全を第一に考え、必要なときに必要な情報を届けられるよう、きめ細かく大胆な編成を続けていきたいと思う。

JNN・JRN 絆プロジェクトを立ち上げ、『朝ズバッ!』やニュースなどの番組で被災地の方に少しでも役立つ情報を放送したり、JNN・JRN 共同災害募金を行ったりしている。また、ラジオではリスナーに不要となったラジオを持ってきていただき、点検した上で被災地に送るキャンペーンを行った。

業績への影響は、現在精査しているところなので詳細は控えるが、営業利益は確保できていると思う。

今後は、福島原発がどうなるかが一番大きな問題だと認識している。被災地の復興に向けた状況や被災された方々の取材に力を入れる一方で、原発の動向も注意深く観察し、的確な報道をしていくことが何より重要だと思っている。

<4月編成> 衣笠常務

まずはレギュラー番組の強化だ。バラエティ、ドラマのみならず、報道・情報番組を強化し、TBS全体の力をあげていきたいと思う。また、「ココロ元気ウィーク」を実施したが、視聴率的にも、TBS発信のメッセージとしても、大きな効果を発揮したと感じている。4月以降もこうした「ココロ」をキーワードにして、強化週を展開していきたいと思う。

8 月には、「世界陸上韓国テグ大会」も開催されるので、震災の復興が今後進む中、人々が勇気付けられるような熱いイベントにすべく、さまざまな展開を検討しているところだ。さらに、日曜昼の単発枠「スパニチ」や、木曜ゴールデンの「スパモク」などの枠を活用し、将来を見据えた企画開発にも積極的に取り組んでいく。

東日本大震災は、長期的な視点で取り組むべき必要があると思っているので、報道局、情報制作局を中心に、綿密な、バランスの取れた報道活動、番組づくりを進めていきたいと思っている。

<ホールディングス社長就任にあたって>

TBS テレビと TBS ホールディングスとして関連会社を率いてやっているところは業態が重なるところが多いので、一緒にして迅速な意思決定をしようという趣旨で、微力ではあるが大任を任されたのだと思っている。未曾有の大震災が起こり、経済も大変な状況だ。放送業そのものも、いろいろな形でビジネス環境は変化している。大変大きな課題があると思う。皆様のご支援を得て全力を挙げて、放送局としての社会的な使命を果たすとともに社業を発展させていきたいと思っている。

<ラジオ関連> TBSR&C 加藤社長

震災発生直後から報道特番を編成。被災地へ記者 2 名を派遣し、東北放送の援軍としてもリポートを行っている。3 月 18 日に各家庭で使われていないラジオを集めて被災地へ届ける「被災地にあなたのラジオを」キャンペーンを立ち上げ、10 日間で 6,765 台のラジオが持ち寄られた。3 月 29 日までに 3,810 台を被災地・避難所へ送り届け、残りも修理等終えて届ける。「radiko」のエリア制限が 13 日に解除されたのはよかった。関東地区は 4 月 11 日までこの措置が続く。番組編成は先週からほぼ通常に戻った。

4 月改編は小幅で、ナイター中継『エキサイトベースボール』は 4 月 5 日(火)にスタートするが、中継試合がない間はプロ野球関連などのスポーツニュースを伝える。営業関連では 2 月は順調に推移し、タイム、スポット共に前年比 100% 超えの結果となったが、3 月は地震発生で想定外の状況。

2 月の聴取率調査の結果、9 年 8 ヶ月(58 期)連続で首位となった。関係各位に感謝したい。

以上